中島川・寺町エリア

■エリアの概要

中島川の水辺は、袋橋・眼鏡橋から桃渓橋にかけて石橋群があり河畔歩道がよく整備されており、良好な水辺景観を呈しています。周辺には、風頭山の裾野に広がる寺院群と墓地が分布しています。また、夏の風物詩として定着している精霊流しや斜面墓地での花火、おくんちなど、長崎らしい多くの行事や祭りが行われているエリアです。

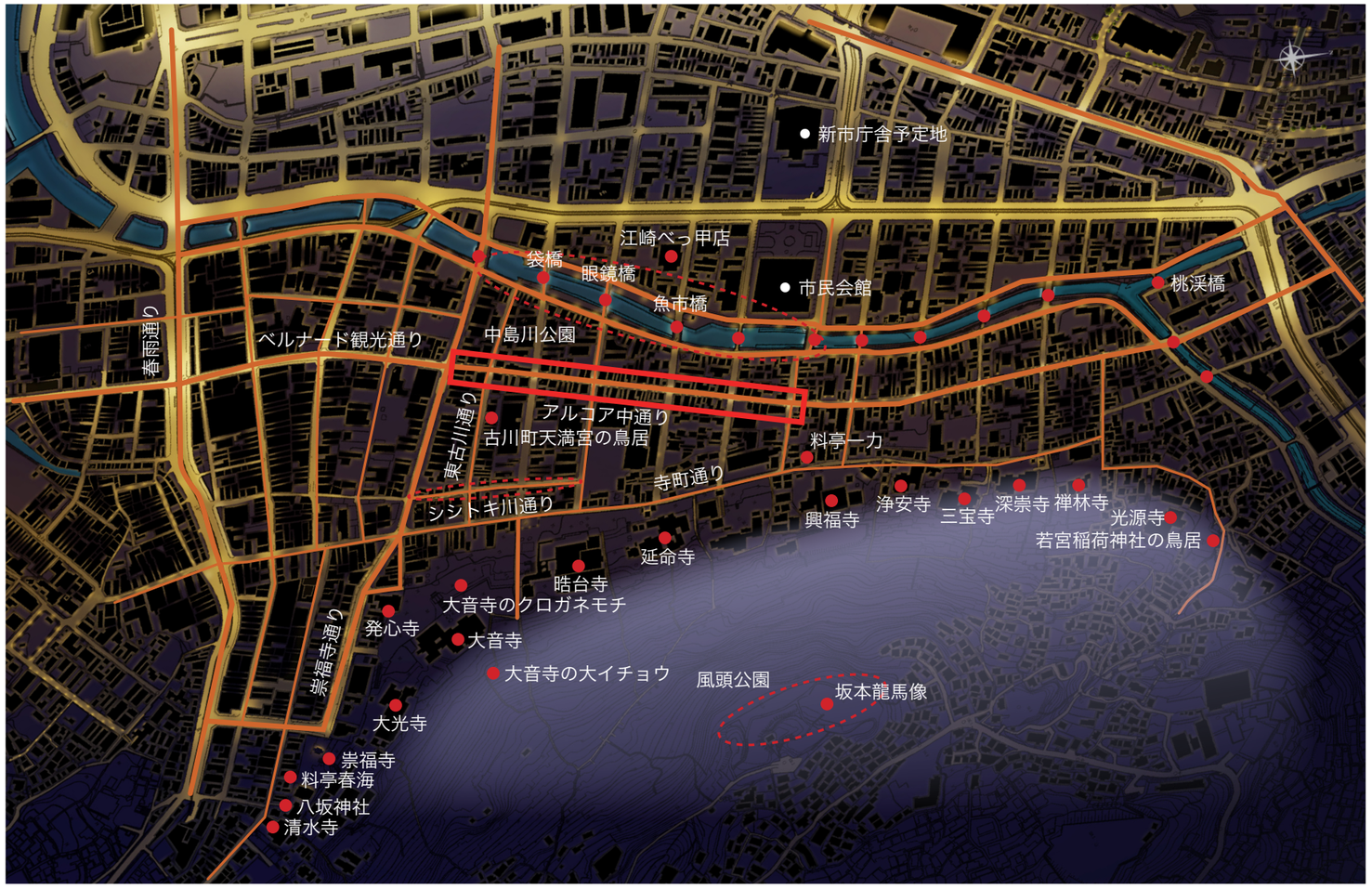
コンセプト：伝統と町を繋ぐ絆の光

長崎における「和」の表情を存分に演出すると共に、市民も観光客もそぞろ歩きを楽しみ、人と人との繋がりや温かさに触れられる時間を演出できる夜間景観の形成を目指します。

■方針

- 中島川周辺は、橋梁群等のランドマークは、印象的なライトアップを行います。
- 中通りは、江戸時代の旧町の交差点をハイライトし、各町の個性を表現した行灯や門灯の設置を推奨することで、歴史と賑わいを感じさせます。
- 中島川公園は、植栽のライトアップと低く設定したベース照明により、そぞろ歩きをしたくなるような光だまりをつくります。
- 寺町通りは、寺の山門や石垣等のランドマークを適切にライトアップします。

… ランドマーク
… 公園・広場等
… 主な動線
… 通りに面した門灯のデザインを町ごとに統一するエリア
… 「長崎灯」推奨エリア



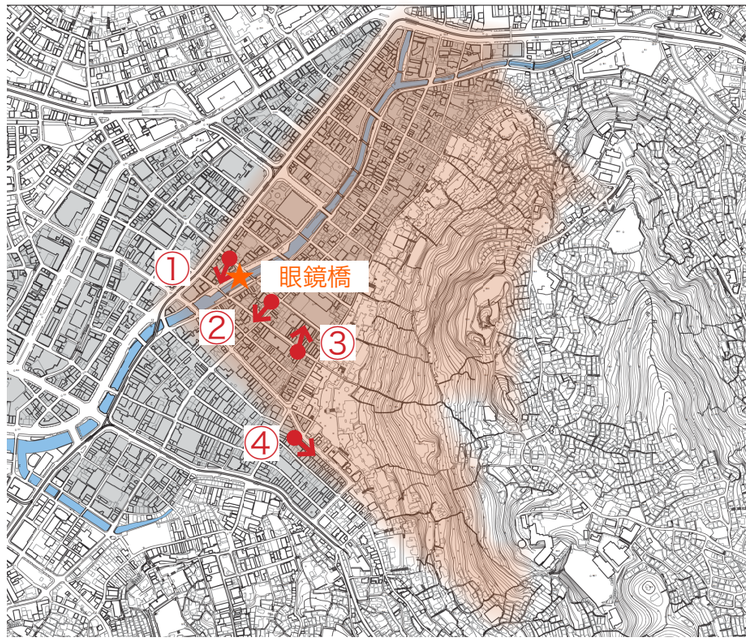
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-4. 中島川・寺町エリア

現状調査

■現状分析と課題

そぞろ歩きしたくなるような親水空間と商店街が続くこの地区ですが、夜の中島川沿いはナトリウム灯によって、豊かな緑も水面の表情もかき消され、商店街は街路灯の光だけが残っています。特徴ある景観を夜も心地よく魅せる光環境が必要です。



★ … ランドマーク

♂ … 調査写真撮影箇所

①中島川公園

ナトリウム灯のグレアと演色性の悪さにより、豊かな緑や水面が色彩を失っている。

②中通り商店街

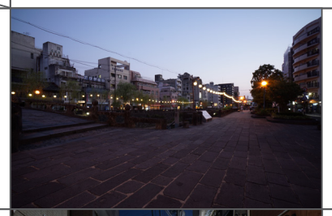
商店街が閉まってしまうと、街路灯の白い光のみになってしまい、昼間の良い雰囲気が感じられにくい。

③ししとき川

手摺には LED の照明が点いており、歩道側は電球色の暖かみのある光で心地よいが、川側は暗い。

④崇福寺通り

電線が地中化されており、両側に街路樹のある通りであるが、ナトリウム灯により緑を感じることができない。

	現状調査から見た問題点		夜間景観向上のための基本原則
陰影の考え方		・路面の明るさは保たれているが、 一様に明るく単調に感じられる	・2-20 Lx 程度の幅で、均一な明るさではなく、 そぞろ歩きにふさわしいリズムのある陰影づくりを行う
色温度		・ナトリウムランプは 2000K、 街路灯の一部は 5000K	・商店街は 3000K 程度、 上記以外は 2700-3000K 程度に整える
鉛直面輝度		・商店が閉まってしまうと通りが暗い	・川沿い樹木のライトアップと水への映り込みに配慮する ・橋、寺社群、石垣等のライトアップを適切に行う ・商店街の店舗は、閉店後も照明を残すことを推奨する ・自動販売機を設置する場合は、夜間景観に配慮する
グレア対策		・ポール灯、防犯灯がまぶしい	・ポール灯や防犯灯はグレアに配慮された器具を使用する
演色性の優先度		・ナトリウム灯が多く演色性が悪い	・人も緑も多いエリアのため、Ra90 以上を基本とする
器具		・器具のデザインにばらつきがある	・和風の器具デザインで統一する ・LED を基本とする
オペレーション		・大きな問題なし	・時間によるライトダウンを検討する

※ Lx（ルクス）とは：光によって照らされる面の明るさ（面積あたりの光束）
※ K（ケルビン）とは：光源の固有の色味を表す単位
※輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ（面積あたりの光度）
※ Ra（アールエー）とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-4. 中島川・寺町エリア

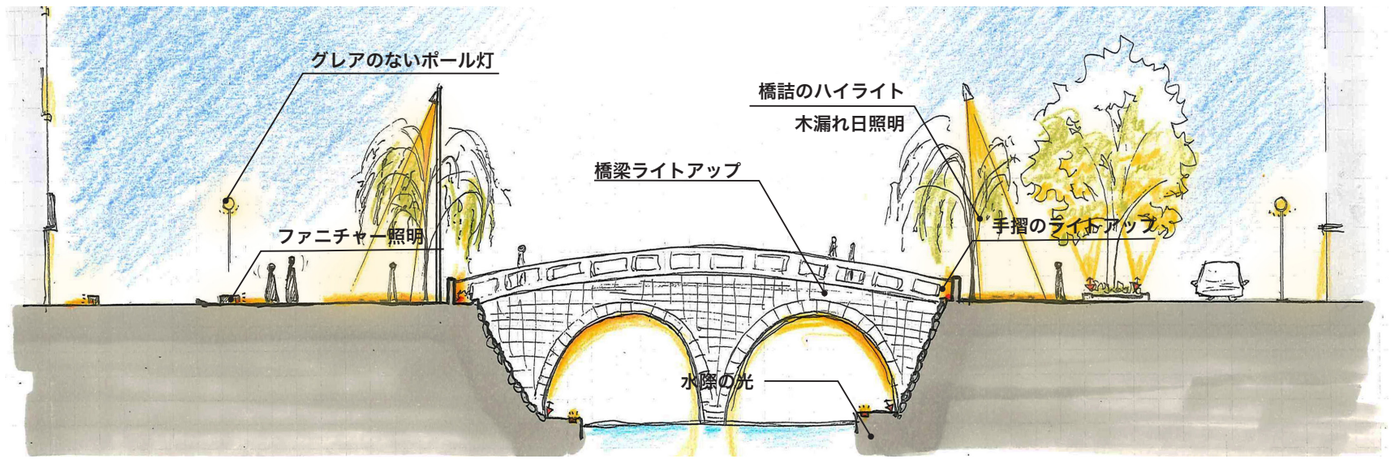
中島川公園　整備イメージ

現状

整備イメージ

■整備イメージについて

橋梁のライトアップは、それぞれの橋の表情に合わせて行います。眼鏡橋の場合は、水面への映り込みを考慮して、アーチの内側を照らし上げるとともに、側面は石の表情を繊細に見せられるよう、眩しい投光器ではなくグレアカットの施された小型の器具によって照射します。
川沿いは、意匠の美しい石の手摺のアップライトを行って鉛直面の明るさを得ながら、水際の空間は、耐水性のあるソーラー電源で蓄光するタイプの埋め込みインジケーターによる照明を検討します。



断面イメージ（S = 1/200）

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-4. 中島川・寺町エリア

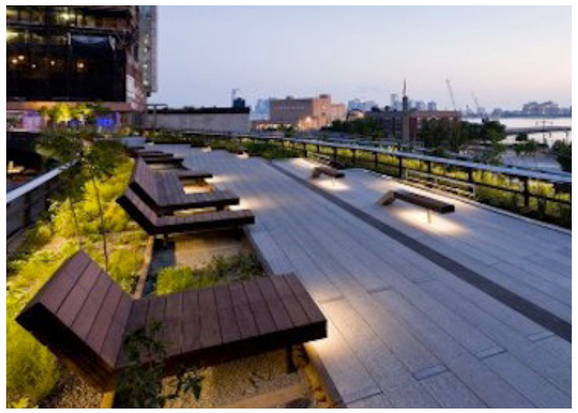
川端通り　整備イメージ

現状

整備イメージ

■整備イメージについて

川沿いの遊歩道については、グレアを感じるポールのナトリウム灯は輝度感のないものに変更し、不足する明るさは、ベンチや花壇などの屋外ファニチャーに仕込まれたフットライトによって効率よく確保します。
橋詰の空間については、柳の樹高よりも高いポール灯によって、樹間からハイライトの照明を行うことで、柳の葉の影が木漏れ日のようにゆらいで路面に映るように演出します。



公共空間のファニチャー照明の事例（ニューヨーク）

橋梁の手摺アップライトの事例（リヨン）

高いポール灯による木漏れ日照明の事例（東京）

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-4. 中島川・寺町エリア

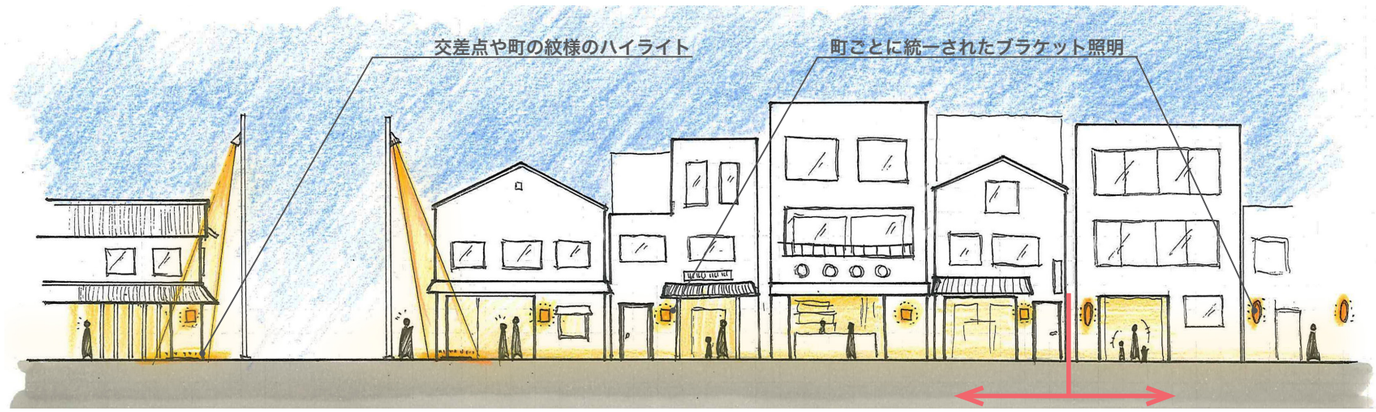
アルコア中通り商店街　整備イメージ

現状

整備イメージ

■整備イメージについて

まちなか地区の中心を貫く「まちなか軸」でもあるアルコア中通り商店街については、商店街のポール灯の不点灯を改善し、色温度を周辺よりやや高い 3000K 程度の光源に統一し、輝度を落とします。交差点両側の路面に埋め込まれた町のシンボルをハイライト照明によって照らし、江戸時代の町割りを顕在化します。
また、通りに面した建物のブラケット照明や置き行灯などの小さな明かりによって通りの風情を演出することを推奨します。
これらの灯具は、町ごとに共通性のあるデザインとし、伝統ある町割りが感じられるようにします。



立面イメージ（S = 1/200）

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-4. 中島川・寺町エリア

崇福寺通り　整備イメージ

現状

整備イメージ

■整備イメージについて

文化財にも指定されている崇福寺の山門は、通りに対して重要なランドマークとなっていることから、アイストップとなるようなライトアップを施します。
参道らしい雰囲気を夜にも感じられるように、ポール灯のグレアを徹底して排除し、樹木をライトアップして鉛直面の明るさを通りの奥の山門へと繋げます。

グレアがなく鉛直面の明るさが確保されている通りの事例（リヨン）

山門のライトアップ事例（明治神宮）

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-4. 中島川・寺町エリア

寺町通り　整備イメージ

現状

整備イメージ

■整備イメージについて

寺の山門が並び、石積みが続く様子が印象深い寺町通りですが、その美しさが夜には感じられないため、石積みを丁寧に照らします。また、寺町らしさを感じさせる山門は、通りのなかでの光だまりとなるように、温かみのある低い色温度を基調とした照明でのライトアップを行います。

山門のライトアップ事例（埼玉）

石積みライトアップのイメージ（北海道）